セゾンエアコン　据付説明書・電気配線工事説明書

FDTP　401～1601

PJA012D703A

〔4方向吹出し〕

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）、リモコン取付方法は裏面をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。又、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
ワイヤレスキットの取付けにつきましては、キットに同梱してます「ワイヤレスキット据付説明書」をご覧ください。

お願い

○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
○溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水漏れにいたる可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、おおいなどにより必ずカバーをしてください。

① 据付のまえに

▶据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
▶まず下記項目を確認してください。
●機種・電源仕様
●配管・配線・小物部品
●付属品

〈付属品〉

本体吊り込み用

	品名		数量	用途
1	平座金(M10)		8個	ユニット吊り下げ用
2	レベルゲージ(インシュレーション)		4個	本体吊込調整用

⚠注意	ユニット運転前にファン内側のインシュレーション（4個）を取り外してください。
	そのまま運転すると故障の原因になります。

冷媒配管用

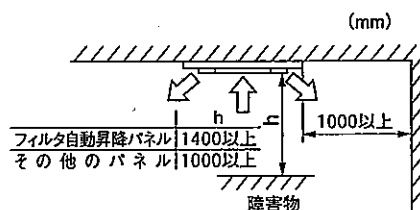
	品名		数量	用途
1	パイプカバー		1個	ガス管用
2	パイプカバー		1個	液管用
3	バンド		4個	パイプカバー用

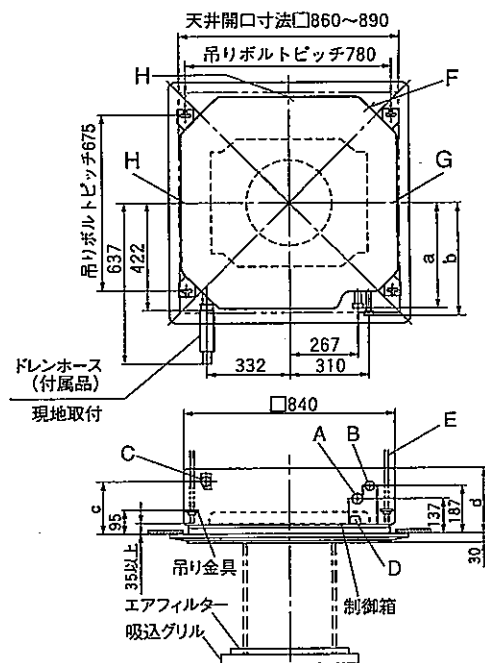
ドレン配管用

	品名		数量	用途
1	パイプカバー		2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース		1個	
3	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

② 室内ユニットの据付場所の選定

1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
●冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
●直射日光の当たらない所。
●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）
2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
3．ワイヤレス機を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するためユニット間を6m以上離してください。

室内ユニット据付スペース

●ユニット一壁、ユニット一ユニット間等、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしない事を確認してください。（遮風材別売）

▶2方向・3方向吹出の場合は風量「Lo」での使用は避けてください。

A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管接続口
D	電源取入口
E	吊りボルト
F	OA取入口
G	吹出分岐ダクト接続口
H	加湿器接続口

〔標準シリーズ〕

機種	a	b	c	d
401～801	403	417	212	270
1121	403	417	212	295
1401, 1601	403	417	269	365

〔インバータシリーズ〕

機種	a	b	c	d
40Z～56Z	403	417	212	270
63Z, 80Z	403	417	212	295
112Z～160Z	403	417	269	365

冷媒配管時の注意事項

フレアナット締付トルク

- φ 6.35： 14～ 18(N・m)
- φ 9.52： 34～ 42(N・m)
- φ12.7 ： 49～ 61(N・m)
- φ15.88： 68～ 82(N・m)
- φ19.05：100～120(N・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

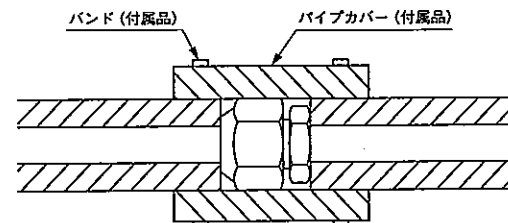
●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）

●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）

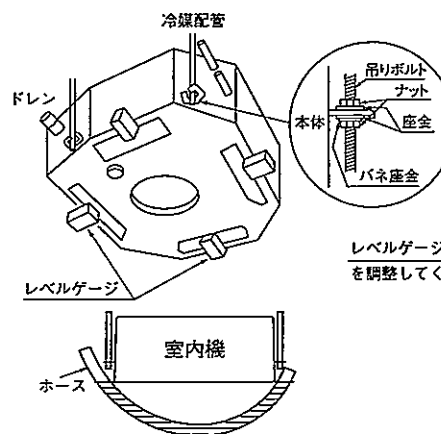
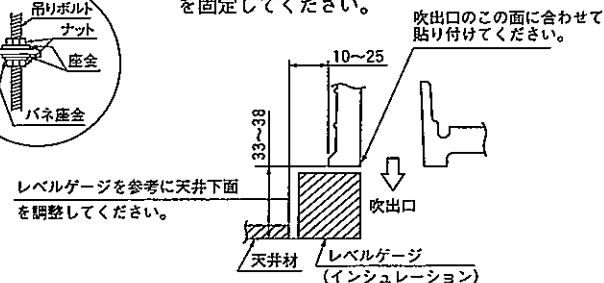
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。

●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

③ 吊り込み

●吊りボルト(M10 or M8)、同用ナット、平座金およびバネ座金を4組現地にて手配してください。

A.天井がある場合

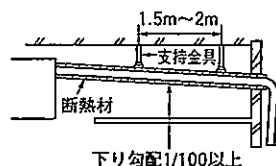
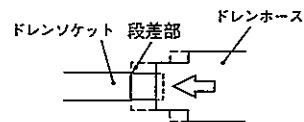
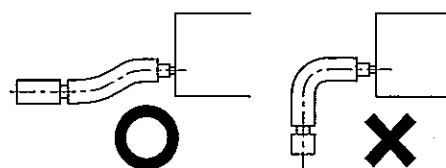
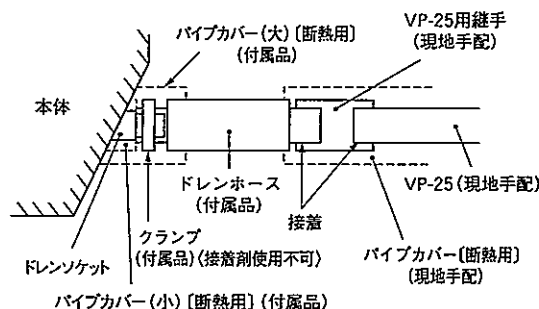
1. 標準シリーズの場合□860～□890をあけてください。
   梱包用ダンボールケースの外周を参考に天井開口をあけてください。
   ▶天井開口中心とユニット中心は同じです。
2. 吊りボルト位置（675×780）を決めてください。
3. 吊りボルトは、4本使用し、1本当り50kg fの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4. 吊りボルト長さは、天井面より70mm程度上としてください。
5. ユニット吊り込み後付属のレベルゲージを貼り付け、ユニット高さを固定してください。

6. 透明ホースに水を入れたものを使用してユニットの水平度を確認してください。（ユニット両端での高さ許容値は3mm以内）

B.天井後貼りの場合

1. 吊りボルト位置(675×780)を決めます。
 ▶吊りボルトピッチセンタとユニットセンタは同一です。
2. 吊りボルトは、4本使用し、1本当たり50kg fの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
3. 梱包用ダンボールケースの外周を参考に天井開口をあけてください。
4. 上記A－5.、6.により固定してください。
 ▶梱包用ダンボールを使用して室内機をカバーすることができます。

お願い ●吊りボルトが1.3mを超える場合は、M10の吊りボルトを使用し、かつ、吊りボルトに筋交い等を行い、補強をしてください。

④ ドレン配管

（ツイン機・トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。）

●付属のドレンホースとVP-25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。

●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っぱって使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。

●接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損する恐れがあります。

●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。

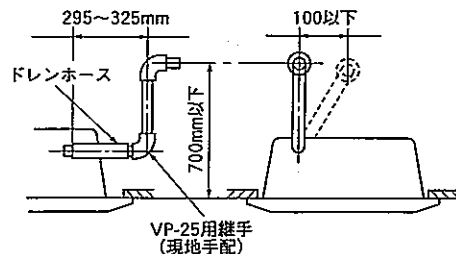
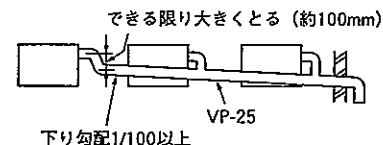
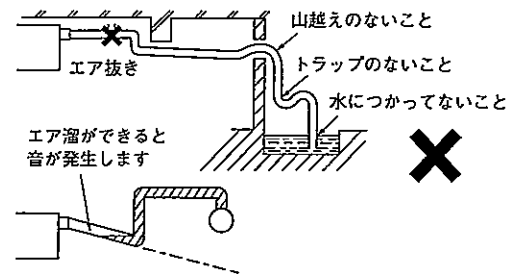
●付属のドレンホース（軟質塩ビ端）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
〈接着剤使用不可〉

●ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP-25(現地手配)を接着・接続してください。

●ドレン配管は下り勾配（1／50～1／100）とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。

●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。

●エア抜きは絶対に設けないでください。

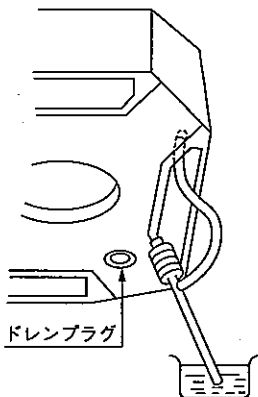
●複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。

●結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
・ドレンソケット部
 排水テストを実施後、パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー(大：付属品)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。（パイプカバーは形状に合わせて切断してください。）
・室内にある硬質塩ビパイプ

●ドレン配管の出口高さは、天井面より70cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。

●ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

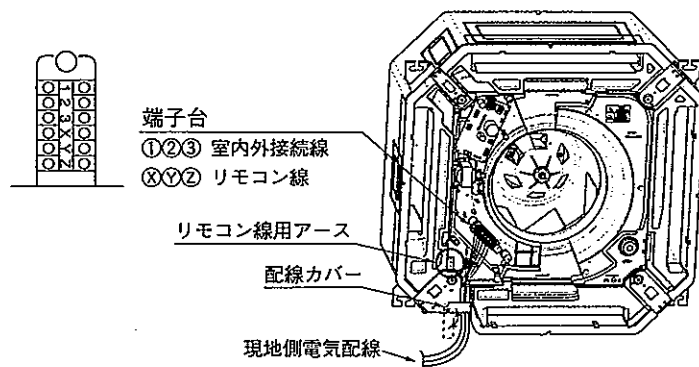
排水テスト

●試運転時に排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1．本体吹出部より給水ポンプなどを使用して本体ドレンパンの中へ約1000c.c.ほど注水してください。
2．ドレン排水しているか排出口部でご確認ください。
※ドレン排水用電動機の回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
3．ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
※ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

ドレンポンプ強制運転方法

●室内機基板上の設定を応急運転（SW9-3 ON）にし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ON（端子台①②へAC200V）15秒後にドレンポンプは連続運転します。
（注意：送風機も連動します。）
●排水テスト後は、必ず応急運転設定を元の状態（SW9-3 OFF）に戻し、かつ、基板上のコネクタCnBを差し込んでください。

（電気工事が終了していない場合は排水管つなぎ込み部に凸形継手を接続し注水口を設けて配管系統のもれ及び排水状況の確認をしてください。）

⑤ 電気配線取出し位置および電気配線接続

1．配線カバーを点線のように、ねじをゆるめ回転移動させてください。
2．電装品箱の蓋を取り外し、現地側電気配線の接続を行ってください。
尚、配線はクランプにて確実に固定してください。
3．配線接続後、配線カバーを元に戻してください。
※電気配線の接続内容の詳細は裏面の「電気配線工事説明書」に記載してあります。

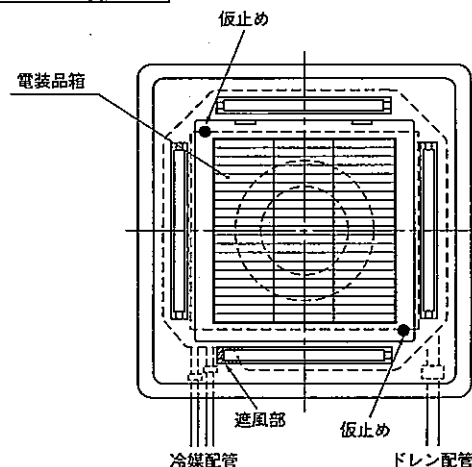
⑥ パネル取付

（パネル取付方法の詳細はパネル付属の説明書をご覧ください。パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。）

1．本体付属のレベルゲージで本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
▶レベルゲージはパネル取付前に取り外してください。
2．パネルに付属のボルト4本のうち、2本を対角に5mm弱ねじ込みます。（●印）
3．2本のボルトにパネルをひっかけ、仮止めをしてください。
4．仮止めしたボルト及び残りのボルト（2本）を締めつけてください。
5．ルーバーモータ用コネクタ（白）を接続してください。
（オートスイングなしは不要）
6．リモコン操作でルーバーモータが動作しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を10秒間以上切り、リセットしてください。

パネル目地合わせ

●パネルはコーナー部先端で左右合わせて30mm（約2°）、本体は左右合わせて30mm（約3°）回転できます。

パネル取付制限

●パネルは、左図に示す方向で取付けてください。
●左図以外の方向で取付けると、風洩れの原因となります。
オートスイング用・オートリフト用の配線が接続できません。
●吸込みグリルに取付の制限はありません。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
ファン内側のインシュレーションは取り外されていますか。	故障	

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は３心ケーブルを使用してください。

⚠ 警　告

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

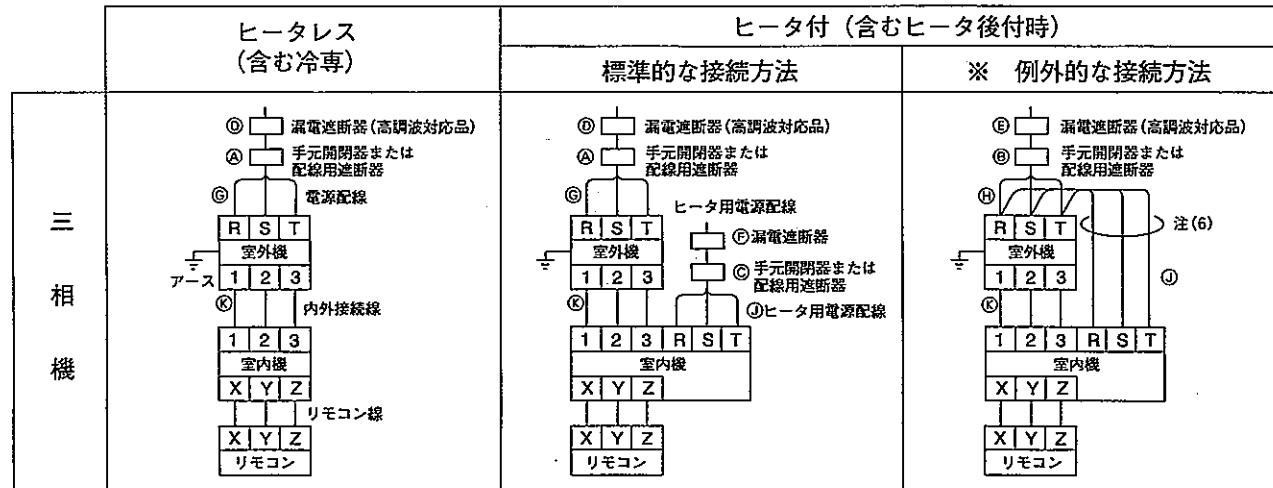
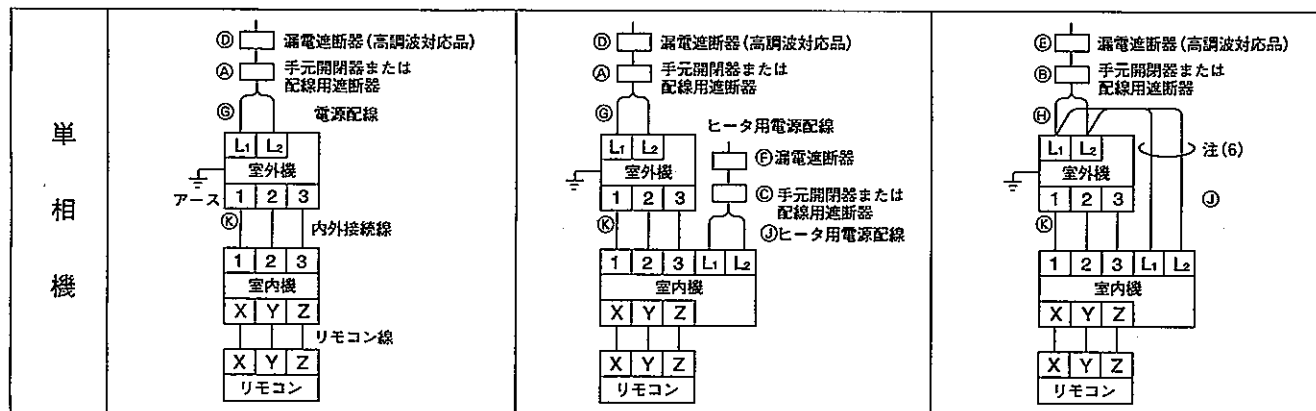
⚠ 注　意

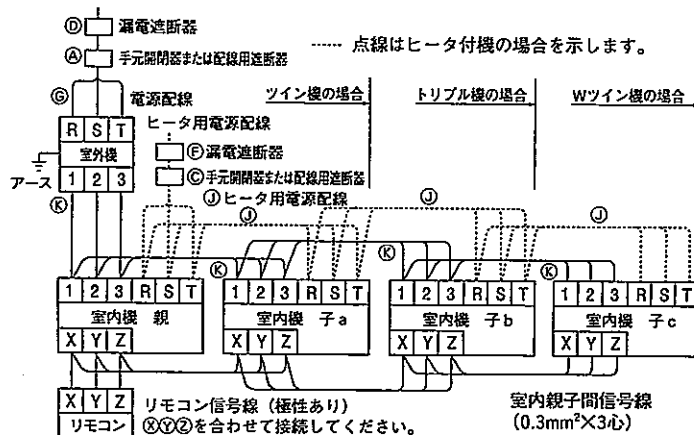
●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。

●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く）
　※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

ツイン・トリプル・Wツイン機の結線

Vマルチ（システム）も同一

①室内親・子機間は端子台①②③及びⓍⓎⓏの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチＳＷ２により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチＳＷ５-１,ＳＷ５-２により、子ａ～子ｃに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室 内 機			
		親	子ａ	子ｂ	子ｃ
室 内 基 板 アドレススイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル・ツイン・トリプル・Wツイン：ヒータレス〉Vマルチ（システム）も同一

注 (1)配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(2)室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。
(3)衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)	アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長	太さ×本数		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
標準・ヒータレス（含む冷専）	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	3.5mm²(φ2.0)×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	3.5mm²(φ2.0)×2	20m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	2.0mm²(φ1.6)×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	3.5mm²(φ2.0)×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²(φ2.6)×3	32m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P140・P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm²(φ2.6)×3	23m	φ1.6×3	φ2.0	M5

インバータ・ヒータレス（含む冷専）		室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)		
	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	3.5mm^2(φ2.0)×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm^2(φ2.6)×2	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	2.0mm^2(φ1.6)×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63･P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	2.0mm^2(φ1.6)×3	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P112～P160	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm^2(φ2.6)×3	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5

〈シングル：ヒータ後付時〉Vマルチ（システム）も同一

注 (4)ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。

(5)配線こう長は、電圧降下２％とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓙの記載なき欄の配線こう長は50mです。

(6)室内外接続線Ⓚとヒータ用電源線Ⓙは必ず別ケーブルとしてください。

標準・ヒータ後付時		室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(5) 太さ×本数	電源配線 こう長	ヒータ用電源配線 注(5) 太さ×本数	ヒータ用電源配線 こう長	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ 注(6)			
	単相	P40～P63	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	3.5mm^2(φ2.0)×2	15m	2.0mm^2(φ1.6)×2	31m	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	2.0mm^2(φ1.6)×3	16m	2.0mm^2(φ1.6)×2	31m	φ1.6	M5
		P63			30A	20A	20A	15A	15A	15A	3.5mm^2(φ2.0)×3	22m	2.0mm^2(φ1.6)×3	28m	φ1.6	M5
		P80	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm^2(φ2.6)×3	32m	2.0mm^2(φ1.6)×3	28m	φ1.6	M5
		P112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm^2(φ2.6)×3	22m	2.0mm^2(φ1.6)×3	28m	φ2.0	M5
		P140･P160			50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm^2(φ3.2)×3	26m	2.0mm^2(φ1.6)×3	28m	φ2.0	M5

インバータ・ヒータ後付時		室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(5) 太さ×本数	電源配線 こう長	ヒータ用電源配線 注(5) 太さ×本数	ヒータ用電源配線 こう長	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ 注(6)			
	単相	P40～P56	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	3.5mm^2(φ2.0)×2	15m	2.0mm^2(φ1.6)×2	31m	φ1.6	M5
		P63	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	30A	15A	15A	5.5mm^2(φ2.6)×2	18m	2.0mm^2(φ1.6)×2	31m	φ1.6	M5
		P80			50A	40A	40A	30A	15A	15A	5.5mm^2(φ2.6)×2	16m	2.0mm^2(φ1.6)×2	31m	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	2.0mm^2(φ1.6)×3	16m	2.0mm^2(φ1.6)×2	31m	φ1.6	M5
		P63･P80	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	30A	15A	15A	5.5mm^2(φ2.6)×3	27m	2.0mm^2(φ1.6)×3	30m	φ1.6	M5
		P112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	30A	15A	15A	5.5mm^2(φ2.6)×3	18m	2.0mm^2(φ1.6)×3	29m	φ2.0	M5
		P140･P160			50A	40A	40A	30A	15A	15A	8.0mm^2(φ3.2)×3	27m	2.0mm^2(φ1.6)×3	29m	φ2.0	M5

〈ツイン・トリプル・Wツイン：ヒータ付〉

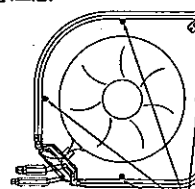
注 (7) ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。

(8)配線太さⒿは20mまでの電圧降下(2%)を見込んであります。現地の配線が20mを越える場合は、
内線規程により配線太さを見直してください。

(9)室内機にヒータ装着した場合、室外機アース線太さを見直してください。

ヒータ付（含むヒータ後付時）	室内ヒータ合計容量	漏電しゃ断器(A)	開閉器(A)	配線太さφmm又はmm^2 注(8)
		Ⓕ	Ⓒ	Ⓙ
	4.3kw以下	15	30	φ1.6
	5.0kw以下	15	30	φ2.0
	6.9kw以下	20	30	φ2.0
	10.0kw以下	30	30	5.5

室外形式	アース線 太さφmm又はmm^2	アース線 ねじ
80	φ1.6	M5
112・140	φ2.0	M5
160	5.5	M6

⚠注意

オプション品の電気ヒータを使用する場合、熱交換器に取付けられているエアディレクターを必ず取り外してお使いください。(エアディレクターが無い機種もございます。)
取り外さない場合、火災、有毒ガスが発生する原因になります。

Ⓑ リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

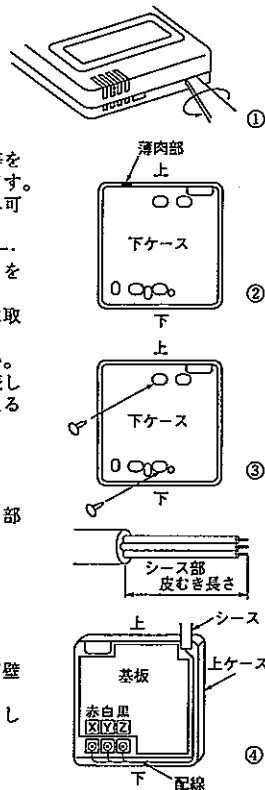
1）直射日光の当たる場所　3）湿気の多い所・水の掛る所
2）発熱器具の近く　4）取付面に凸凹がある所

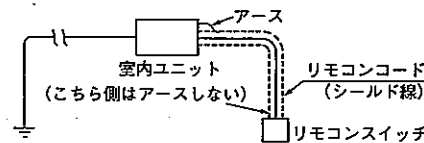
注意
リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋内に入れて保護してください。

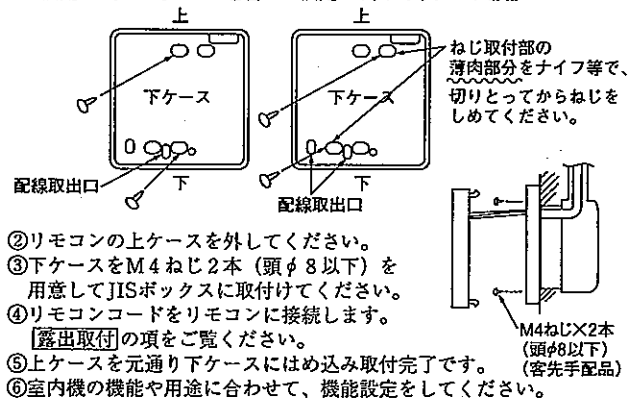
取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ２本で壁に取り付けます。
④リモコンコードを端子台に接続してください。
室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
リモコンコードは、$0.3mm^2$(推奨)～最大$0.5mm^2$以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

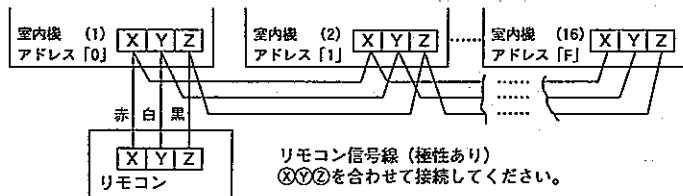
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：$0.3mm^2$×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大$0.5mm^2$以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100～200m以内……$0.5mm^2$×3心
300m以内……$0.75mm^2$×3心
400m以内……$1.25mm^2$×3心
600m以内……$2.0mm^2$×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

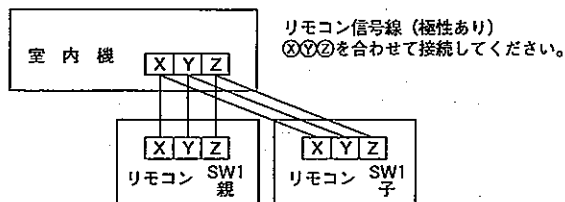
①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。
〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336
１個用スイッチボックス
２個用スイッチボックス

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM４ねじ２本（頭φ８以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

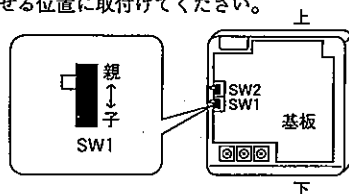
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。

Ⓒ 1リモコンによる複数台室内機制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。
①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
　延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
②室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

③電源投入後、リモコンの［エアコンNo］を押すと室内機アドレスが表示されますので、［▲］［▼］ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。

②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
　工場出荷時は親設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
　　親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW 1	親	親リモコン
	子	子リモコン

Ⓔ 機能の設定

●本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。
従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、グリル昇降有効設定や、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	ｸﾞﾘﾙ昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	○
		風向調整禁止	
08	ﾀｲﾏｰ	ﾀｲﾏｰ有効	○
		ﾀｲﾏｰ禁止	
09	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ設定	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ無効	○
		ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ﾌｧﾝ速調	ﾌｧﾝ3速	○
		ﾌｧﾝ2速	
		ﾌｧﾝ1速	
14	冷専／ﾋｰﾎﾟﾝ	ﾋｰﾎﾟﾝ	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	ｴﾗｰ表示設定	ｴﾗｰ表示有り	○
		ｴﾗｰ表示無し	
17	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	表示しない	
		180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	
05	外部入力切換	ﾚﾍﾞﾙ入力	○
		ﾊﾟﾙｽ入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正＋3℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○
		停止→弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		1℃	○
10	凍結防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○
		ﾌｧﾝ制御無効	
11	電気集塵機	ﾌｧﾝ制御無効	○
		ﾌｧﾝ制御有効	
12	加湿器制御	ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ非連動	○
		ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ連動	

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種（ヒーポン機／冷専機）により、自動判別されます。
注2:［(1)リモコン機能］の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、［(2)室内機能］の④ルーバ制御設定も変更してください。

Ⓕ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。

1．ドレンポンプ強制運転の開始
　①試運転ボタンを3秒以上押します。
　　「項目◆で選択」→「セットで決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
　②「冷房試運転▼」の表示の時に、▼ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
　③セットボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
　　表示：「ドレンポンプ運転」→「セットで停止」
2．ドレンポンプ運転の解除
　④セットボタン又は、運転／停止ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
　　エアコンは停止状態となります。

Ⓖ 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

1．冷房試運転の開始
　①運転／停止ボタンを押して、運転します。
　②運転切換ボタンにより、「冷房」を選択します。
　③試運転ボタンを3秒以上押します。
　　「項目◆で選択」→「セットで決定」→
　　「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
　④「冷房試運転▼」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
　　表示は、「冷房試運転」となります。
2．冷房試運転の解除
　運転／停止ボタン又は、温度設定▽△ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
　「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。
　①点検ボタンを押します。
　　「項目◆で選択」→「セットで決定」→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
　②「運転データ表示▼」の表示で、セットボタンを押します。
　③表示が「室内00▲」（点滅）となります。
　　▲▼ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
　　（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
　④セットにより確定します。
　　（室内機番号が点滅から点灯に変わります。）
　　「データ読込中」（データを読込む間点滅表示）
　　↓
　　「運転データ◆」と表示され、01番のデータが表示されます。
　⑤▲▼ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
　　表示される項目は右記の通りです。
　　※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
　⑥室内機を変更する場合は、エアコンNo.ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
　⑦運転／停止ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、リセットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ファン速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT電流
31	室外ファン速度
32	静音モード有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	デフロスト ON/OFF
36	コンプ運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

Ⓗ 制御の切換

（注）□囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡	遠方運転入力（CnT）をレベル入力	SW9-1 SW9-2	オートリフトパネルの降下長さの設定	
	開放	遠方運転入力（CnT）をパルス入力			
J-2	短絡	暖房サーモOFF時弱風	SW9-3	OFF	―――
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風		ON	応急運転（基板上のコネクタCnBも同時に抜く）
J-3	短絡	通常運転	SW9-4	OFF	―――
	開放	遠方運転入力（CnT）により運転制御		ON	高天井制御（ファン回転数アップ）
J-4	短絡	―――			
	開放	暖房室温検知補正＋3℃			

Ⓘ オートリフトパネル降下長さの設定

1．室内ユニットコントローラ基板のディップスイッチSW9-1、2のセットにより吸込みグリルの降下長さを設定してください。
　Ⓔ 機能の設定(1)リモコン機能のグリル昇降設定に従って、据付地域の電源周波数にリモコン設定してください。
・オートスイング付パネル：T-PSCL-34Wは、4mにセットしてください。
・T-PSL-34W／T-PNL-34Wの、4mセットはワイヤの絡み付き事故になるため使用禁止です。

室内基板	SW9-1	OFF		ON		出荷時 ON
	SW9-2	OFF	ON	OFF	ON	出荷時 OFF
降下長さ（m）		1.3	1.6	2.0	4.0	
対応パネル		PSL,PNL			PSCL	

・ワイヤレスキット使用時は4段階設定です。

室内基板	SW9-1	OFF		ON		出荷時 ON
	SW9-2	OFF	ON	OFF	ON	出荷時 OFF
降下長さ（m）	50Hz	1.1	1.3	1.6	2.0	対応パネル PSL,PNL
	60Hz	1.3	1.6	2.0	2.4	

2．10cmステップの設定方法：リモコンにより設定します。
　①グリル昇降ボタンを押します。
　　「室内機選択◆」→「セットで決定」→「室内00▲」（点滅）と、表示が切り換わります。
　②▲▼ボタンで、設定したい室内機の番号を選びます。
　　室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。そのまま、③へお進みください。
　　「全台▲」を選択すると、室内機グループ制御時、全台同一の設定となります。
　③セットにより確定します。
　　室内機番号が点滅から点灯に変わり、その後「◆で昇降する」と表示されます。
　④セットボタンを押すと、「降下長設定◆」と表示されます。
　⑤現在の降下長が表示されますので、▲▼ボタンにより降下長を選びます。
　⑥セットボタンにより確定します。
　　「◆で昇降する」表示に戻ります。
　⑦運転／停止ボタンを押すと、降下長設定モードを終了します。
　（設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。
　　但し、設定が完了していない内容は無効となりますので、ご注意ください。）

設定の途中で、リセットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。但し、設定が完了していない内容は無効となりますので、ご注意ください。

◎室内機アドレスを変更した場合は、設定クリア操作をして、全室内機の設定を再設定してください。
　セットボタンと▲ボタンの二重押し操作により全室内機の設定がクリアできます。
◎リモコン1台で2台以上の室内機を運転する場合は、室内機毎に設定が必要です。

セゾンエアコン　パネル据付説明書

PJA012D701

FDTP　ホワイトパネル・ラクリーナパネル

エアコン本体の据付説明書と共にお読みください。

お願い

- 電源受電前にパネルを取り付けた場合はグリルの昇降動作はできません。
- 電源受電前にグリルを収納する場合は、付属のストッパーで仮固定する事ができます。
- 電源受電後は、グリルに付属のストッパーが外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。

＊ご注意：付属のストッパーを装着したまま昇降動作を行った場合、ワイヤーのからみつきが発生し故障する恐れがあります。

- グリル取付後の初回はリモコン「上げる」の操作を行い、グリルを正規位置に収納してください。（マイコンが収納位置を記憶します。）
- グリルが下がっている状態で電源ＯＮした場合、エアコンの運動はできますが一旦収納動作をした後はグリルが下がっているとエアコンの運転はできません。
- リモコン動作で吹出ルーバーが動作しない場合、コネクタ接続を確認後、元電源を10秒以上切り、もう一度電源を入れ直してください。
- ワイヤーは、折り曲げ、ねじり、噛み込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

① 据付場所の選定とパネル・リモコン・本体の確認

- 吸込グリルの動作範囲の周辺及び下方30cm以内に障害物を置かないでください。
- 仕様と形式を確認してください。

＜ホワイトパネル＞

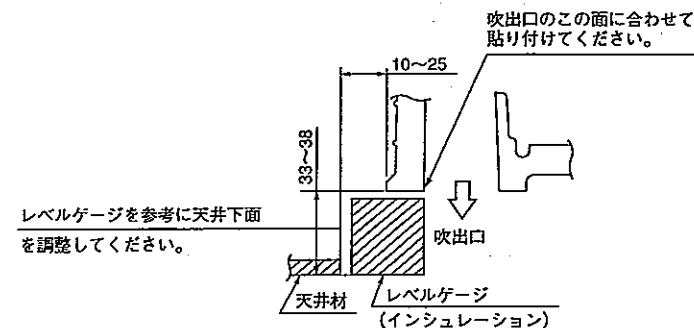
パネル形式	リモコン形式	その他	本体形式
T-PSA-34W	RC-D1	オートスイング	FDTV-Z FDT-1 FDT-HKXD4
T-PNA-34W	RC-D1	——	
ワイヤレスキット使用時	RCN-T-W	ワイヤレス	

＜ラクリーナパネル＞

パネル形式	降下長さ	設定方法	リモコン形式	その他	本体形式
T-PSL-34W	～2 m	10cmステップ	RC-D1	オートスイング	FDTV-Z FDT-1 FDT-HKXD4
T-PSCL-34W	～4 m	10cmステップ	RC-D1	オートスイング	
T-PNL-34W	～2 m	10cmステップ	RC-D1	——	
ワイヤレスキット使用時	～2 m	4 段階	RCN-T-W	ワイヤレス	

② 本体の取付レベルの確認

- エアコン本体の据付説明書と共にお読みください。
- エアコン本体に同梱されているレベルゲージで本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
- エアコン本体と天井材との取付レベルを確認してください。
- エアコン本体付属のレベルゲージを貼り付け、本体の取付高さを固定してください。
- レベルゲージはパネル取付前に取り外してください。
- 本体取付高さはパネル取付後、コーナ開口部より微調整ができます。
  （詳細は ⑤パネルの取付 をご参照ください。）

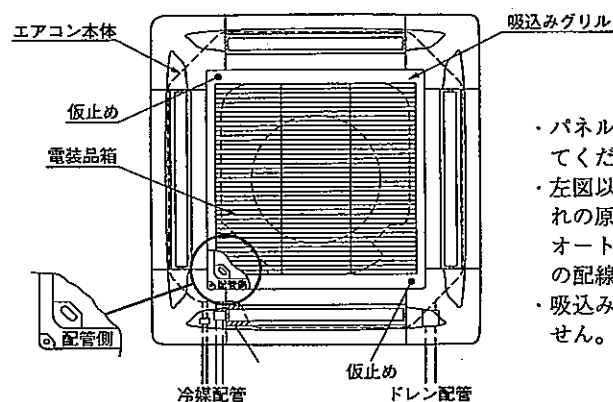
＊ご注意：エアコン本体と天井材との取付レベルが範囲を越えますと、パネル取付の際無理な荷重がかかり、破損する恐れがあります。

③ 吸込グリルの取外し

<ホワイトパネルの場合>
①吸込グリルの切り欠き部を持ち上げて、吸込グリルを開けます。
②吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部を化粧パネルから外します。

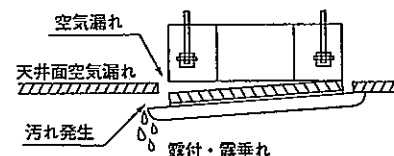
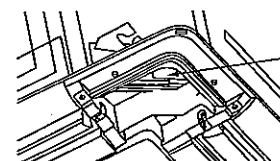
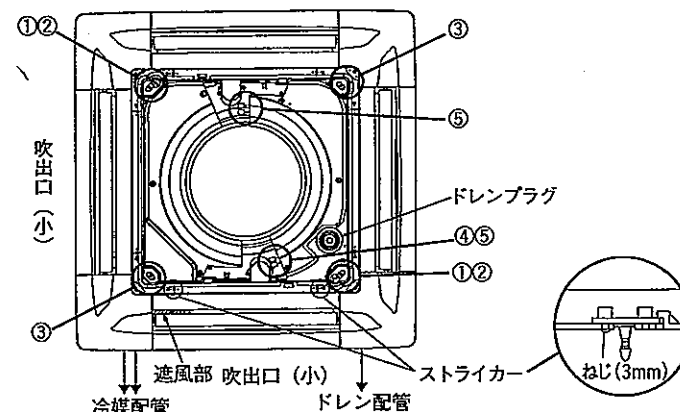
<ラクリーナパネルの場合>
①吸込グリルを少し持ち上げて、吸込グリルを開けます。
②吸込グリルの対辺各２箇所に取付けてあるワイヤーガイドを外側にスライドさせて外してください。

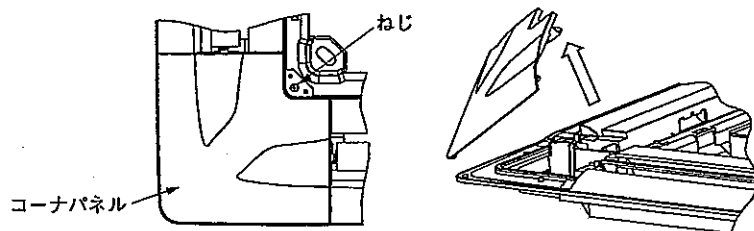
＊ご注意：吸込グリルはゆっくり持ち上げてください。
ワイヤーおよびワイヤーガイドが破損する恐れがあります。

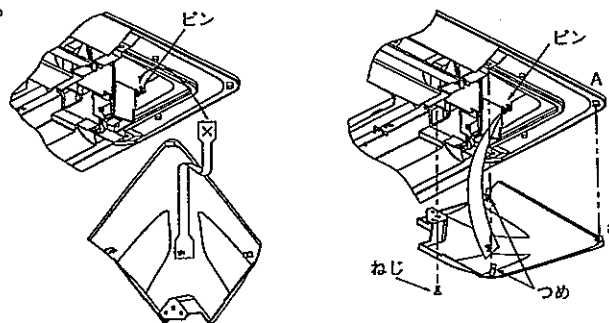
④ 本体取付方向とパネル・吸込グリル方向

1．本体とパネルの取付には方向性があります。
・吹出口（小）の部分と冷媒配管方向を合わせてください。
・パネル吸込部「配管側」と本体冷媒配管の位置を合わせてください。
・モータ、スイッチ用コネクタの接続方向を確認してください。
2．パネルと吸込グリルには方向性はありません。
・吸込グリルの方向を変更する場合は、パネルのストライカーの取付位置をグリル表面の「引く」の文字位置方向へ付け換えて対応してください。<ホワイトパネルのみ>

・パネルは、左図に示す方向で取付けてください。
・左図以外の方向で取付けると、風洩れの原因となります。
オートスイング用・オートリフト用の配線が接続できません。
・吸込みグリルに取付の制限はありません。

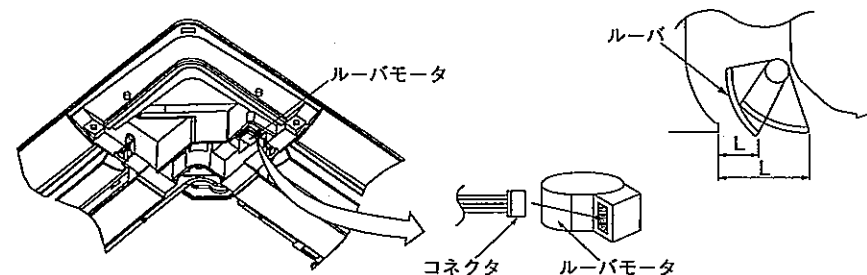
⑤ パネルの取付

①エアコン本体にパネル付属の吊りボルト4本のうち、2本を対角に5mm弱ねじ込みます。
（ドレン配管側とその対角へ仮止めしてください。）
②パネルを２本の吊りボルトに引っかけ、仮止めしてください。
③仮止めした吊りボルト及び残りの吊りボルト２本を締め付けてください。
＊ご注意：
・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。
・吊りボルトを締め込んでも天井面と化粧パネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。

・室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であれば化粧パネルを取付けたまま、ユニット本体の据付高さを微調整できます。

④ルーバーモータ用コネクタ（白５Ｐ）を接続してください。（オートスイング無しは不要）
⑤グリル昇降モータ用コネクタ（白４Ｐ）を２箇所、グリル位置検知用リミットスイッチ用コネクタ（青２Ｐ）をそれぞれ接続してください。（ホワイトパネルは不要）
⑥各々のコネクタは、コントロールボックス内に収めてください。
＊ご注意：コネクタ接続の際グリル引き上げ用ワイヤーに巻き込まれないように注意して同一色、同一極数のコネクタを接続してください。

⑥ コーナーパネルの取外し

・コーナー部のねじを外し、コーナパネルを矢印の方向へ引き上げて取り外してください。

⑦ コーナパネルの取付

①コーナパネルのひもを図の様に化粧パネルのピンに引っかけてください。
②コーナパネルのａ部を化粧パネルＡ部に挿入してから、つめ２箇所をはめ、ねじを取り付けてください。

⑧ 上下風向を固定する場合

●この化粧パネルは、据付場所の環境に合わせて各吹出口毎に上下風向を固定することができます。お客様の要望により設定してください。なお、固定した上下風向はリモコンによる操作、およびすべての自動コントロールが無効になります。
また、リモコンの液晶表示と異なる場合があります。

①元電源（漏電遮断機）を切ります。
②固定したい吹出口のルーバモータのコネクタを外します。
外したコネクタ部はビニールテープで電気絶縁してください。
③固定したい吹出口の上下風向ルーバを手でゆっくり動かし下表の範囲内で上下風向を設定します。

<設定範囲>

上下風向の目安	水平30°	下吹70°
L寸法（mm）	36.5	22.5

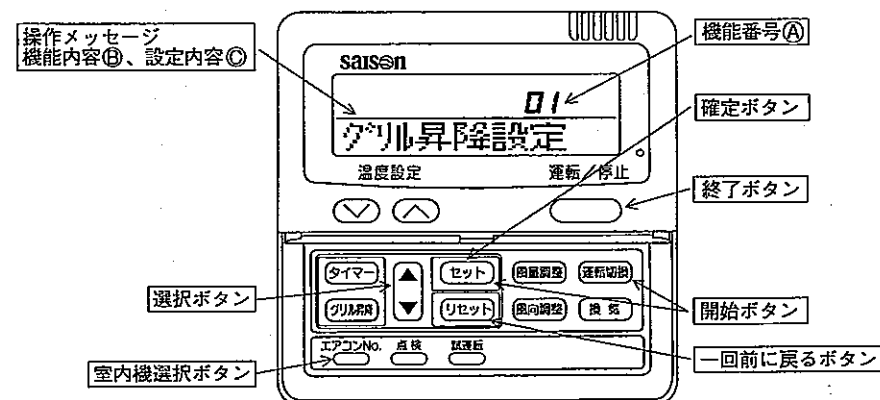
※22.5～36.5mmの間は任意で設定されてもかまいません。

＊ご注意：範囲外の設定はしないでください。
露たれ、露付、天井面の汚れ等の発生またはユニットが正常に運転しない原因になります。

⑨ ラクリーナパネルの設定 <ラクリーナパネルのみ>

<グリル昇降の設定>（ワイヤードリモコンのみ）

＊ご注意：ワイヤードリモコン（RC-D1）でラクリーナパネル使用時は、取付時必ずグリル昇降有効設定を行ってください。
工場出荷時はグリル昇降『無効』となっていますので、グリル昇降ができません。

①リモコン停止状態で セット と 運転切換 ボタンを同時に３秒以上押します。
「項目⬍で選択」→「セット で決定」→「機能設定▼」と、表示が切り換わります。
②「機能設定▼」の表示で、セット ボタンを押すと、表示が「リモコン機能▼」となります。
③「リモコン機能▼」の表示で、セット ボタンを押します。
「データ読込中」（データを読込む間点滅表示）→「機能⬍で選択」と表示され、下図表示の「01　グリル昇降設定」が表示されます。

④「01　グリル昇降設定」の表示で、セット ボタンを押すと、「昇降無効」と表示されます。
（既にグリル昇降設定済の場合は、「有効50Hz地区」あるいは「有効60Hz地区」と表示されます。）
⑤ ▲ ボタンを押すと、設定内容が「有効50Hz地区」→「有効60Hz地区」と切り換わりますので、設定を選びます。
⑥ セット ボタンにより確定します。設定内容が2秒間表示された後、「設定内容送信」が表示され、設定が完了します。
⑦その後、表示は「01　グリル昇降設定」へ戻ります。
⑧ 運転／停止 ボタンを押すと、設定が終了し停止表示に戻ります。
（設定の途中で 運転／停止 ボタンを押した場合も終了します。但し、設定が完了していない内容は無効となりますので、ご注意ください。）

＜降下長さの設定＞

1．室内ユニットコントローラ基板のディップスイッチSW9−1、2のセットにより吸込みグリルの降下長さを設定してください。
・オートスイング付パネル：T-PSCL-34Wは、4mにセットしてください。
・T-PSL-34W／T-PNL-34Wの、4mセットはワイヤの絡み付き事故になるため**使用禁止**です。

室内基板	SW9-1	OFF		ON		出荷時　ON
	SW9-2	OFF	ON	OFF	ON	出荷時　OFF
降下長さ(m)		1.3	1.6	2.0	4.0	
対応パネル		PSL,PNL			PSCL	

・ワイヤレスキット使用時は4段階設定です。

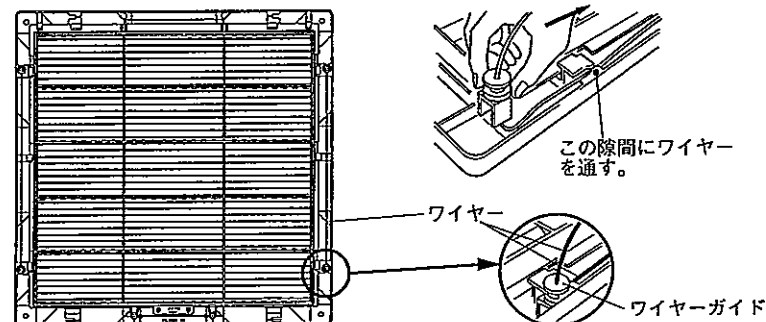
室内基板	SW9-1	OFF		ON		出荷時　ON
	SW9-2	OFF	ON	OFF	ON	出荷時　OFF
降下長さ(m)	50Hz	1.1	1.3	1.6	2.0	対応パネル PSL,PNL
	60Hz	1.3	1.6	2.0	2.4	

2．10cmステップの設定方法：リモコンにより設定します。
①グリル昇降ボタンを押します。
「室内機選択⬍」→「セットで決定」→「室内00▲」（点滅）と、表示が切り換わります。
②▲▼ボタンで、設定したい室内機の番号を選びます。
室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。
そのまま、③へお進みください。
「全台▲」を選択すると、室内機グループ制御時、全台同一の設定となります。
③セットにより確定します。
室内機番号が点滅から点灯に変わり、その後「⬍で昇降する」と表示します。
④セットボタンを押すと、「降下長設定⬍」と表示されます。
⑤その後、現在の降下長（例：「降下長2.0m▲」）が表示されますので、▲▼ボタンにより降下長を選びます。
⑥セットボタンにより確定します。「⬍で昇降する」表示に戻ります。
⑦運転／停止ボタンを押すと、降下長設定モードを終了します。
（設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。
但し、設定が完了していない内容は無効となりますので、ご注意ください。）

設定の途中で、リセットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。
但し、設定が完了していない内容は無効となりますので、ご注意ください。
設定内容はコントローラ内部に記憶されていますので停電しても保存されています。

◎室内機アドレスを変更した場合は、設定クリア操作をして、全室内機の設定を再設定してください。
セットボタンと▲ボタンの二重押し操作により全室内機の設定がクリアできます。
◎リモコン1台で2台以上の室内機を運転する場合は、室内機毎に設定が必要です。
◎リモコン2台で室内機を運転する場合は、親リモコンのみ操作可能です。
（子リモコンからの操作は無効です。）

⑩ 吸込グリルの取付

＜ホワイトパネルの場合＞
・吸込グリル取付方法は ③吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。
＊ご注意：パネルのストライカーの取付位置とグリル表面の「引く」の文字位置方向を一致させてください。一致していないと、ストライカーが破損する恐れがあります。
＜ラクリーナパネルの場合＞
①吸込グリルの方向を決定してください。
②パネル側ワイヤーに通してあるワイヤーガイドを吸込グリルの対辺各2箇所の取付部に固定して装着します。
③ワイヤーガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。
装着の際取付部の隙間をワイヤー通過する様に向きに注意して確実に取り付けてください。
④ワイヤーガイド装着後、ワイヤーの曲がり・ねじり・噛み込みがないことを確認してください。
＊ご注意：ワイヤーガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、グリルの自動昇降できなくなったり、グリルが落下する恐れがあります。

⑪ 受電前の吸込グリルの仮固定 <ラクリーナパネルのみ>

モータ駆動のため200V電源受電前には吸込グリルを収納できません。
①電源受電前にグリルを収納したい場合は付属のストッパーで仮止めすることができます。
②ワイヤーを折り曲げたりかみ込まない様に注意しながら持ち上げパネルに収納してください。
③付属のストッパーを図の様にグリルの隙間の穴へ差込みパネルの受け部に引っかけます。
＊ご注意：ストッパーを装着したまま昇降動作を行った場合、グリルの昇降装置が故障する恐れがあります。

ストッパー